

公明の内憂

ウオッチ 安保国会

母体・創価学会から反対の声

自民党と連立を組む公明党の支持母体・創価学会の足もとで「異変」が起きている。安全保障関連法案をめぐる、学会関連の大学関係者や学会員の一部が公然と反対の声をあげたり、法案の白紙撤回を求める署名を集めたり。信仰と政治の間で葛藤を抱えながらの行動だ。

大学に「有志の会」

創価学会の池田大作名誉会長が創立した創価大と創価女子短大。教員や卒業生らが11日、安保法案に反対する「有志の会」を設立した。声明は戦時中に弾圧を受けて獄死した牧口常三郎・初代会長に触れ、「いかなる圧迫にも屈せず、民衆のために声をあげること。これがこそが創価教育の魂」などと述べている。18日現在、



安保法案反対デモに参加した春村徳龍さん(右側の男性)と家族ら＝7月19日、大阪市、李信憲さん提供(画像の一部を加工しています)

在、氏名を公開した学校関係者だけで200人以上が署名を寄せている。

呼びかけ人の一人で創価大非常勤講師の佐野潤一郎さん(50)は「憲法監視は許せない」と感じ、同じ考えの学校関係者やツイッター

のつながりによって広がった。公明党を公然と批判する声はほとんど聞かえてこなかったが、「安全保障関連法案に反対する学生の会」も活発に活動している。私

たちは何もしないわけにはいかない」と話す。ツイッターで公開中。広島など各地から署名が届いており、公明党の山口那津男代表に届ける予定だ。「組織を攪乱するつもりはなく、異を唱えたい人が声を上げられるようにしたいだけ。悩みながらやっています」

愛知県安城市の学会員、天野達志さん(51)は法案の白紙撤回を求める請願書を送り、ツイッターで公開中。広島など各地から署名が届いており、公明党の山口那津男代表に届ける予定だ。「組織を攪乱するつもりはなく、異を唱えたい人が声を上げられるようにしたいだけ。悩みながらやっています」

「平和の党」の理念があるから選挙も手弁当で応援してきました。党の綱領には「常に民衆の側に立つ」とあるのに、なぜ「向こう

側」に行っちゃったんだという思いです」と話す。天野さんの活動をネット上で知り、独りで署名集めを始めた人もいます。東京・渋谷で2日、千葉県の50代の公務員女性がベ

8/14 朝日

ン手に腰掛けている人たちに署名を呼びかけていた。祖母の代からの学会員。公明党の選挙活動にも関わってきた。だが、2003年の自衛隊のイラク派遣を与党として支持した時から疑問を感じ始めた。昨年の集団的自衛権行使容認の閣議決定で見限った。選挙活動には関わらないと決めた。

デモでフラカード 和歌山県岩出市の学会員、春村徳龍さん(55)は7月、「バイバイ公明党」と書かれた創価学会の三色旗のフラカードを手に、大阪市内の法案反対デモに家族で加わった。「先生(池田

名譽会長)はずっと平和憲法の大切さを語っておられた。だから自信を持ってフラカードを掲げられる。『公明党よ、目覚めてくれ』という思いです」

信仰の場を気まずい雰囲気にしたくないので、地域の学会員が集つてそこで政治の話は控えている。その代わり、党本部に一貫問と抗議の電話をかけたり、創価学会の役職者に議論を

挑んだりしている。こうした行動に関して創価学会広報室は「それぞれ動きについては、個人の立場で行われているものと考えています。公明党をはじめ政府与党には、国民による法案の理解が十分に深まるよう丁寧な説明を希望します」とコメントする。

共同通信の6月の世論調査によると、公明党支持層

で法案に「反対」とした人は前月より約12ポイント増えて47%と賛否が逆転。7月には公明党支持層の約94%が、法案に関して政府が「十分に説明しているとは思われない」と答えた。

紙が相次いで届いた。「こんな法案はおかしい」「公明はどうしたんだ」

この幹部は手紙をくれた支持者の家を地元の議員と一軒1軒回り、1時間近く説明しているが、「支持者の心が離れていないか心配だ……」と話す。

漆原良夫・中央幹事会会長は7日の記者会見で、理解が広がらない現状について「丁寧に説明すればわかっただけで、思っている」と語ったが、妙案は見つからない。(池田和生)

公明党は支持者の理解を得ようと必死だ。6月には安保法案について幹部らが説明するDVDを作成。国会議員や地方議員がそれを使って説明に回る。だが、中堅議員の一人は「街頭演説をしていると、よく罵声を浴びせられる」と溜らし、なかなか浸透しない。

自民党との与党協議では、自衛隊を海外に派遣する際の3原則を打ち出して「歯止めをかけた」と自覚していたが、国会審議が始まると、幹部のもとには支持者からこんな手

議員、説明に懸命

紙が相次いで届いた。「こんな法案はおかしい」「公明はどうしたんだ」この幹部は手紙をくれた支持者の家を地元の議員と一軒1軒回り、1時間近く説明しているが、「支持者の心が離れていないか心配だ……」と話す。

漆原良夫・中央幹事会会長は7日の記者会見で、理解が広がらない現状について「丁寧に説明すればわかっただけで、思っている」と語ったが、妙案は見つからない。(池田和生)

で法案に「反対」とした人は前月より約12ポイント増えて47%と賛否が逆転。7月には公明党支持層の約94%が、法案に関して政府が「十分に説明しているとは思われない」と答えた。

共同通信の6月の世論調査によると、公明党支持層

で法案に「反対」とした人は前月より約12ポイント増えて47%と賛否が逆転。7月には公明党支持層の約94%が、法案に関して政府が「十分に説明しているとは思われない」と答えた。